



公開掘削テストの様態を見守る見学者

# 新型掘削機に高い関心

熱中地

東亜利根ボーリング「SD-125」を公開

東亜利根ボーリング(東京都港区)は先月23日、山梨県甲州市の同社塩山工場で、超高速振動掘削機「SD-125」の新型機「SD-125」の公開掘削テストを開催した。超高速振動掘削機SDシリーズは、地中熱探熱孔(ボアホール)工事や土壌汚染調査・対策工事などの場面で、高品質、高精度で安全な急速施工が可能なことから注目されている掘削機。SD-125の公開に関係者の関心は高く、22社、約40名が集まった。

新型機は、主力機の一つ「SD-175」と比べると、全幅が340ミリ減の1980ミリとスリム化され、重量が10トンを切るサイズになった。搬送時の長さも241ミリ減の7857ミリとなり、扱いやすさが増した。一方で、使えるロッドの長さは、従来機種と同様に3メートルとなり、使い勝手は変わらず、狭い場所での施工が容易になるとが期待されている。1号機は栗本地質が導入した。